

## 第6次芦別市総合計画（第2次素案）に関する意見公募の実施結果及び市の考え方

意見を提出された人数	意見の数	素案の修正
2人	2件	有り

**第6次芦別市総合計画（第2次素案）に関する意見公募の実施結果及び市の考え方**

No.	寄せられた意見の内容	市の考え方
1	<p>『滞在交流人口を増やし、人口減少を食い止める施策が必要』</p> <p>芦別市は、人口が減少すると減額される地方交付税が基本財源で、今後、第6次総合計画では財政基盤の根幹である人口減少対策の前向きな取組みが見えない。芦別の成長のカギは、即急に人口減少を食い止める対策をうつことで、それには、人を呼び込む政策が急務である。</p> <p>この実現には、芦別を「行ってみたい街」にすることが必要であり、それには「富良野に無くて芦別にあるもの」と「気軽に立ち寄れる芦別」の二つがキーワードになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅にカナディアンワールド公園から「赤毛のアンの家」を移設することで、富良野市からの観光客はもとより道内のバスツアーや周遊観光の目玉になり、旅行会社にとっても非常に魅力的な道の駅になることで集客を図る。</li> <li>・道の駅で集客された観光客を街中に呼び込む戦略をたてる。</li> </ul> <p>道の駅に赤毛のアンの家を移設し、富良野の観光客が芦別に来たくなる観光地にすることから始めて、同時に木材の街芦別市として、世界的な貴重な木造建築の赤毛のアンの家を道の駅で大切に保存する体制をつくることで、木材の街として存在感を示すことができる。</p> <p>いずれにしても、滞在交流人口を増やすことに重点を於いた、よみがえる芦別の成長戦略として「赤毛のアンの家」を売り出し「富良野広域観光ゾーンとの一体化の推進」で人口減少の歯止めをかける。</p>	<p>人口減少対策の前向きな取組みが見えず、人を呼び込む政策が急務であり、そのためには、富良野広域観光ゾーンとの一体化の推進が必要とのご意見ですが、市では、これまでも観光客誘致などによる交流人口の増加を図るための施策を講じており、今後も推進していくこととしています。このため、基本構想のまちづくりの基本方向に、「広域連携と多様な交流によるつながり合うまちづくり」として、交流人口の増加につながる各種合宿や観光客の誘致などの取組みを進め、地域経済の活性化を図る旨の記述を追加することといたします。</p> <p>また、道の駅にカナディアンワールド公園から「赤毛のアンの家」を移設することについては、令和元年度末で廃止となるカナディアンワールド公園は、テナント利用者らで構成するカナディアンワールド振興会において、令和2年度から「カナディアンワールド」として自主運営を行うことが計画されております。</p> <p>そのようなことから、赤毛のアンの家（グリーゲイブルズ）は、物語の基幹となる施設の一つですので、移設することは考えておりません。また、歴史的な建築物ではなく、貴重な建材も使用されていないことに加え、老朽化が著しく移設に適さない状況です。</p> <p>いただいたご意見は、本市の地域経済活性化策のご提案の一つとして受け止めさせていただきます。</p>

**第6次芦別市総合計画（第2次素案）に関する意見公募の実施結果及び市の考え方**

No.	寄せられた意見の内容	市の考え方
2	<p>私は、芦別市の未来の可能性を示す計画を、よりたくさんの芦別市民が少なくとも意識をもって頂くことが重要だと思います。</p> <p>人口問題、環境問題などの社会変革とも言うべきことが伴うことは、たくさんの人が関心を持つことが必要です。それを現在の社会といかにうまく融合しながらやっていくのかは、勉強や教育や関心をひくようにしていくことをすることだと思います。</p> <p>良い意味での多様性の尊重や一億総活躍社会の実現、農業、林業などの考え方やエネルギーの考え方やSDGsの目標実現やその他の問題にも市民の関心の高まりが必要だと思います。</p> <p>芦別市は、もはや世界的なブランドとも言える北海道にあり比較的自然災害も少なく自然環境に恵まれ、有名観光地にも近く伸びしろが多いと思います。全道の179市町村はそれぞれが重要な部分はしっかり留めつつ、互いに市町村同士が協力して重複する部分や無駄な部分をなくします。よりよい市町村民へのサービスを考え、幸せを実感できることが、人口問題の解決や持続可能性社会への実現につながるひとつの考えだと思います。</p> <p>一つの案として、芦別市は自信をもって移住を推進し、インバウンドに訪れていただく、そのためのプランや政策を打ち出すことだと思います。幸せに住みよい社会にするためには格差や無縁社会やその他の問題解決に向けて、より市民の意識の高まりと解決力が必要だと思います。またそういう活動は必ず未来にとって良いことだと思います。</p>	<p>人口問題、環境問題などは、多くの人が関心を持ち、高まる必要があるとのご意見ですが、市ではまちづくり基本条例において、「情報の共有」、「市民参加と協働」の2つの柱を基本としてまちづくりを進めており、今後もさまざまな機会を通じて情報を提供し共有を図りながら、まちづくりへの関心が高まるよう努めていきたいと考えています。</p> <p>また、移住を推進し、インバウンドに訪れていただくための政策を打ち出すことが必要とのご意見ですが、移住施策については、第6次総合計画において、新たに自治体運営に関し移住・定住の項目立てを行い、今後の施策展開を図ることとしています。</p> <p>なお、これまでインバウンドの誘致に向けては、国道452号と道道芦別美瑛線を観光道路として位置づけており、近隣市町と連携して早期整備に向けた要望活動を展開しているほか、旭川空港利用促進期成会などを通じて、各種取組を推進しておりますので、基本構想のまちづくりの基本方向「広域連携と多様な交流によるつながり合うまちづくり」として整理いたします。</p>